

も たに

母谷たつりのり後援会便り

平成17年(2005年)10月 Vol.21
 発行 母谷たつりを育てる会
 ホームページ <http://www.motani.jp>
 編集 岡田 孝



市政報告

謹 啓

京都議定書発効の今年、クール・ビズに明け暮れた日本では猛暑のなか一定の成果を上げて地球温暖化防止に貢献しましたが、台風14号の襲来は中国地方でも記録的豪雨により山陽自動車道岩国・玖珂 IC 間で大規模な地すべり災害が発生し、3人の尊い命が奪われるなど全国に大きな爪痕を残しました。米国中南部を襲った大型ハリケーン・カトリーナはジャズの街として知られるニューオーリンズを壊滅状態に陥れ、未だ多くの人々が帰還できない状態にあります。

その後、パキスタン北東部で発生したマグニチュード7.6の大地震は10月20日現在で犠牲者は5万人超と伝えられ、時が経過するにつれて増加する傾向にあると報道されました。この中には国際協力機構(JICA)が派遣した榎原 覚さん(36)と長男の輝ちゃん(2つ)がアパートの下敷きになって死亡するという大変痛ましい残念なニュースも伝えられました。

心からご冥福をお祈りいたしますとともにお見舞い申し上げます。

さて、第5回広島市議会定例会は9月27日から10月7日までの12日間開催され、一般会計補正予算(5,897万2千円)のほか4件の予算案と6件の条例案、その他の議案43件、専決処分案1件の55件が上程され、原案通り可決されました。

この結果、補正後における全会計の総予算規模は1兆1,597億8,437万6千円となりました。

今議会では指定管理者制度導入に伴う非公募分35件がその他の議案に含まれておりますが、制度導入の目的は行政コストの削減のみならず、多様化する住民のニーズに対し効率的・効果的に対応するとともにサービスの向上につながるものでなくてはなりません。

しかしながら市当局が定めた現在公募とされている施設の中には整合性、専門性、特殊性等これまでの度重なる本会議や委員会での審議過程を勘案すれば再検討すべきものも多く含まれていることから、議会はその見直しを強く求める決議案を可決いたしました。



行楽シーズンを前に台風14号で土砂災害が発生した世界遺産の宮島(写真は紅葉谷)

いずれにしても指定管理者制度は始まったばかりであり、広島市直営と民間委託のどちらが良いかは、その施設ごとの設置目的や危機管理上などの問題点等を含め、今後においても慎重に検討すべきであると考えております。

また、補正予算案の中には「新球場の建設場所をヤード跡地とし、建設事業予定者の選定を行うため」として、その委員会開催費用413万9千円のほか、周辺道路整備基本設計876万円、周辺騒音調査207万2千円、国との協議に係る事務費28万7千円を合わせた1,525万8千円と現球場跡地利用の検討費用として429万1千円が含まれています。

今回、調査費としてこれらの補正予算は可決されましたが、これまでの議論からは「現在地での立替えは本当に無理なのか」「建設費用の半分を広島市が負担するというが広島県や経済界が残りの半分を負担するという確約はあるのか」など不透明な問題も多く残されていることから議会内では釈然としない雰囲気が醸り続けています。しかしながら、今回の調査費に関する補正予算は同地区の再開発時には球場建設に関わらず必要とされる経費であることも考慮し可決されました。

また、カープ球団に対しても「カープ自身の新球場建設に関する協力内容や努力は示されないのか」「公金を投入する以上、経営内容をもっと公開すべきではないのか」といった意見も相次ぎ、議論は混迷を深め混沌としています。新球場建設をわざわざ貨物ヤード跡地に移転してまで現在と同じオープン球場では然程替り映えのしないものになってしまうだけでなく、これまでの歴史と愛着を失い、利便性をも低下させることになれば魅力ある広島都市建設につながる投資効果や活性化は見込めないのでは

ないかと考えております。現に盛り上がりかけていた樽募金も「新球場建設は貨物ヤード跡地」と秋葉市長が発表した途端、募金額は下降線を辿り始め、今では樽募金を話題にする人は殆んどいなくなってしまうました。

こうした状況下で突き進めば報道機関のアンケート調査からも明らかなように貨物ヤード跡地でのオープン球場建設は必ずしも民意を反映しているとは言い難く、これまでの広島空港や広島大学の移転で地盤沈下した広島の政策的失敗を三度繰り返すことになるのではないかと危惧しております。

今、求められていることは60年前、廃墟の中から敢然と立ち上がった広島とその先人達の言い尽くせぬ努力に対し、深い感謝と敬意の心を継承し未来に向けて今の広島を如何に建設するかということが現代に生きる我々に課せられた重要な使命であると思えます。

昭和から平成へ、20世紀から21世紀へ移行行く時代の中でなかなか脱皮できなかった日本の方向は第44回衆議院総選挙(9月11日執行)によって大きく転換しようとしており、時代のうねりの中に身を置いていることを実感します。今後は、安定した国家財政の基盤を如何にして構築するのかということと年金問題を中心とした真の社会保障制度確立が急務であると考えております。

最近では毎日に寒さを増し、秋の深まりを感じます。山々では鮮やかに彩られた紅葉がもうすぐ見頃ですね。

皆様方におかれましてはどうかご自愛の上、ご健勝でお過ごしいただきますとともにご多幸をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

広島市議会議員 母谷龍典

ご意見 お願いは **いい汗流そう!! いい笑顔つくろう!!** 私が直接 返事します
 母谷たつりのりホットライン あなたの声を聞かせて下さい。ダイレクトメール mokkun@cc22.ne.jp へ

